

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		どんぐりひろば					公表日 令和 8年 2月 12日	
この度は、アンケートのご協力ありがとうございました。皆様からのご意見を参考により良い事業所にしていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。		2 2世帯		利用児童数	23名	令和 8年 2月 6日現在	回収数 20回	回答率 91%
		チェック項目				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思ひますか。	20				・いつもぐるぐる走り回っています。	成長されている中で興味のある玩具や希望されるものがありましたらご相談ください。
	2	職員の配置数は適切であると思ひますか。	13		1	6	・退職された職員がおられたとき新しい方がなかなか入らないようで大変そうでした。	保育士、理学療法士を配置し保護者の方のご意向を踏まえたより専門的な支援を実施しています。今後もお一人お一人に合った適切な支援をしていきたいと思ひています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思ひますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思ひますか。	19			1		個人に合わせたスケジュールボードや視覚カード等を準備し対応させていただいています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思ひますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思ひますか。	19			1		登所されてからの様子や状態を把握し小さな変化に気づきながらその状況に応じた支援ができるよう努めてまいります。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思ひますか。	20					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思ひますか。	18	1		1		面談の中で支援プログラムをご理解していただけるようになっています。ご質問等ございましたらお申し付けください。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思ひますか。	20					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思ひますか。	18			2		保護者の方やご本人の意向等を取り入れた計画を立案し、自立につながる支援を日々の利用の中で実践できるようご説明しながら療育にあたっていくように努めます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思ひますか。	20					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思ひますか。	19			1	・ミュージックケアや集団活動、外出などしていただいています。	個別課題（どんぐりトライ）では児童に合わせたプログラムを段階的に習得できるよう準備しています。また、興味のあるものから意欲につながる工夫をしています。
保護者への説明等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13		2	5		地域の公園で他校の児童との交流が図れるようにしたり、長期休みなどには体験教室に参加する機会をつくっています。今後も継続して交流する機会を企画し設けていきたいと思ひています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16		2	2		家族支援プログラムの実施はできていませんが、お悩み事などの中からご希望に添える研修や情報提供をしていきたいと思ひますのでご相談ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思ひますか。	20					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20				・個別に話をする機会があります。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思ひますか。	20					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12		2	6	・年間の回数が増えるとうれしい。 ・どんぐりカフェで保護者の交流があります。	どんぐりカフェを開催し、交流する機会を設けております。頂いたご意見を踏まえながらより良い交流の機会を検討していきたいと思ひます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20					微力ではありますが、どのような些細なことでもご相談ください。また、色々な情報等知りたい場合も協力いたします。お気軽にご相談ください。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思ひますか。	20					
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20				どんぐりだよりをいつも見せてもらっています。	定期的などんぐりだよりの配布を通して活動の様子をお伝えしています。自己評価につきましてはHPにも掲載させていただいております。	
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思ひますか。	20						
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19			1		事業所内にマニュアルを用意し、定期的に職員研修や児童を交えて研修を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20				保護者も参加の避難訓練があってもよい。	・定期的な訓練を行いおたよりを通してお知らせしております。 ・頂いたご意見をもとに事業所での避難訓練の体験も検討していく所存です。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思ひますか。	20					4月当初に年間の安全計画を配布させていただき周知して頂けるように努めておりますが、ご質問や確認事項があればその都度お声掛けください。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19		1		万が一、事故等発生した場合は第一連絡先にお電話することになっております。変更等あればお知らせください。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19		1		・本人の性格なので仕方ないです。 少しでも不安なく通所して頂けるよう努力いたしますのでご相談ください。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19		1		・毎週、楽しみにして通っています。 ・本人の性格なので仕方ないです。 発達支援を軸としながら楽しいことの中に自立する力、成長につながる工夫をしてみたいと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20				・とても助かっています

その他ご意見

- ・今後ともよろしくお願いします
- ・いつもありがとうございます。
- 楽しい企画がたくさんあり楽しく通所させていただいております。
- ・いつも楽しみに通っているようです。色々な工夫にすごいなと思っています。
- ・とても楽しく通っています。長期休みの時は「お出かけ」ができるのをいつも楽しみにしています。
- ・いつもお世話になり、ありがとうございます。手がかかって大変だと思いますが、ていねいに見て頂いています。
- ・いつもお世話になりありがとうございます。成長を感じさせていただき感謝しています。
- ・いつもお世話になり、ありがとうございます。息子の様子をいつも丁寧に教えていただき、とてもうれしいです。
- また年度末のDVD鑑賞会でも普段の様子を知ることができます。次回もぜひ参加させてください。
- ・毎週とても楽しく通わせていただいています。
- 長期休みの日もいろんな場所へ行くことができ、とても楽しそうに帰ってから話をしてくれています。
- 仕事があるのでとても助かっています。お友達と色々な経験と一緒にでき家族といるときとは違うことが学べコミュニケーションもたくさんとれていてとてもありがたいです。いつもありがとうございます。

公表

## 事業所における自己評価結果

公表日 令和 8年 2月 12日

事業所名		放課後等デイサービスどんぐりひろば				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		まなびの部屋、あそびの部屋、活動のエリア、休養室とご利用児童の思いや用途に分け、使用している。	各児童が過ごしたい環境で活動ができるために職員の対応や配置等職員間で留意しながら安全な支援を継続する意識を持つ。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者、保育士、理学療法士を常勤4名配置	専門職員による専門性を生かした支援を実践していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		事業所が2階ということで昇降には十分に留意し安全な対応を心掛けている。利用児童にトイレや場所の表示を行っている。	建築構造上、階段の昇降が身体に負担となる児童の支援をどのように行うか安全を優先しながら利用していただく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		整理整頓に心がけた環境を行っている。	事業所の空間を有効利用し各々の遊びや活動に広がりを持てるよう模索を重ねていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		児童の様子を見ながら配慮を必要と感じた場面では個別の空間を提供するようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		半年に一度、法人が定めているDOCAP（Do Check Action Plan）評価を実施し、日々研鑽に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		年に一度保護者アンケートを実施し、保護者の意向を把握し、支援の見直しに活用している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		DOCAPの面談の時に現状と課題を共有し法人、事業所、個人としての視点を重視した振り返りができるように取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	現在は事業所内にて評価を行い日々改善に努めている。	法人本部との協議を行い必要であれば実施する。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		法人内3放デイ事業所と合同の研修を開催したり外部研修を受講する機会を設け研鑽に努めている。	専門性のある療育実践の経験値が浅くさらに研鑽を深める必要がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		令和7年2月に公表	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		面談や利用時の連絡により保護者のニーズを把握しケース会議の中で共有したことを個別支援計画や日々の支援活動に活用している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		面談に直接支援員も参加できるように努めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		ケース会議、職員会議の中で利用児童の様子を共有しながら計画に沿った支援に努めている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		保護者からの情報の中の発達検査や、Ncプログラムを用いてアセスメントを行う場合もある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		5領域の項目について職員間で共有し保護者や児童の意向を入れた支援内容の作成に取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員会議やケース会議の中で共有するように努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		5領域の項目を着目しながら利用児童の発達支援を実践できるように取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		5領域の項目を着目しながら利用児童の発達支援を実践できるように取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		支援開始前にミーティングを行い、前日からの振り返りを含めて、職員全体で利用児童の日々の状況や課題を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		送迎終了後、勤務時間外に振り返りを行うことはあるが、概ね翌日に支援の振り返りを踏まえたミーティングを行っている。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容、利用児童の様子などを記録し、職員間で共有している。	
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年ごとに計画の見直しを実施している。また、時期にかかわらず必要に応じて保護者と面談を行い計画を変更することもある。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		個別支援計画をもとに「4つの基本活動」を組み合わせたプログラムを行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		個別の課題や、活動の中で自分で選ぶ、決める経験が積み重ねて行ける支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。		○	併用利用先の事業所と情報共有する機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		移行の際に療育機関や、保育所等と連携しながら	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の行事等把握した上で適切に支援を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の様子を見に伺ったり利用時の様子をおたよりなどを通して共有する中で発達に即した支援が行えるようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		卒業後の進路等を検討する際に必要とされる事業所との連携をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	保護者の方から放課後等訪問等の報告書を共有させていただきながら支援の参考にさせていただいている。	保護者の方の希望に応じて連携や助言をいただく機会を図っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		法人内にある放課後児童クラブと一緒に活動する機会を設けたり地域の公園に出かけ一緒に過ごすことができるようにしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	市内に自立支援協議会の児童を対象とした部会がないと認識しており、市内の放課後等「サード」の連絡会を通して情報共有をしている。	自立支援協議会の開催時には積極的に参加をして情報共有をする。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の支援の内容や様子等、口頭で伝えるほかに毎月のおたよりの中でも個別に様子を書いて渡している。また希望される保護者と連絡ノートで様子を教諭するようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ペアレント・トレーニングの実施はできていないが個別支援計画についての話の中で家庭での様子を伺いアドバイスができるように心がけている。	保護者の要望に応じた家族支援が行えるよう職員のスキルアップをおこなう。
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に詳細を説明している。長期休暇前には活動の内容や利用者負担等について書面にて説明し、同意をもらうようにしている。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の方からサービスの内容等ご意向を確認し支援に反映できるように努めている。	成長の中で児童の思いも引き出しながら発達につなげていく支援を行っている。
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者との面談の中で要望を把握し児童発達支援管理責任者のもとに職員全体で五領域に沿った支援を実践する計画を立て説明同意をもらっている。	
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談や電話などで相談に対応できるように努めている。	
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		就労されている保護者も多いなかでコンスタントな開催は難しいが「どんぐりカフェ」と称し交流できる機会を設けている。	情報交換の場となるような保護者会の開催を要望に応じて開催する。
41		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者の方からの苦情があった場合、内容詳細等整理し法人法部に報告するとともに信頼回復に向けた対応に心がけている。	活動の内容や予定の変更等ごまめに絶命、同意をいただくように説明を行う。
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		どんぐりだよりを定期発行し利用時の様子を伝えるようにしている。	
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		事前に個人情報の取扱いについて保護者に説明同意を得たうえでお便りなどの掲載を行っている。	
44		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		事前にどのような伝達方法がよいか、保護者の方と伺いながら、また支援の中で児童の様子や特性を把握しながら配慮するようにしている。	
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	行事等は事業所内で完結しているが法人内の同地域にて運営している小規模多機能事業所に向いて交流する機会を設けている。	これまで重ねてきている活動として、近隣の飲食店やお店への買い物を行ない顔見知りの関係を作っているが、更に交流する機会を設け地域の中で活動する機会を増やす。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		保護者の方には緊急時の連絡体制についての説明や了承を得ることに努めている。また、職員には入職時や研修の中で各マニュアルを周知してもらっている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的（年に4回）に火災、地震等に備えた避難訓練を実施している。また、避難袋のチェックも行っている。	大規模な災害を想定した訓練をイメージすることは難しい中で定期的な訓練を継続し備えていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		定期的な受診について保護者から何い服薬や発作時の対応方法などの把握に努めている。	定期的な受診をされている場合は診察に同行し情報共有に努める。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約の時の面談の際保護者の方にアレルギーの有無を確認している。	面談の中でアレルギーの有無がわかったら医師の指示書を依頼する。また、詳細について保護者から伺う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、年間の計画の中で研修、訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難場所や年間の安全計画書を配布し、また訓練の報告をおたよりを通して行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員間でどのような場面や事柄でリスクとして捉えるかを共有しヒヤリハット報告書を作成し、法人本部へ報告している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に虐待や身体拘束について研修（年に4回）を行い意識づけを行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		定期的に虐待や身体拘束について研修（年に4回）を行い意識づけを行っている。また、現在は保護者の希望と同意の下で戸外活動などにおいて安全を第一に考えた対応を考慮している。その際は計画書に記載している。	成長の中で安全を確保できるかの見極めを行っていく。	

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	どんぐりひろば		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日	～	令和8年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	年 月 日	～	年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人が3つの放課後等デイサービスを運営している中で併用利用をしている児童については可能な限り方向性の統一や情報を共有しながら支援をしている。また事業所間での幅広い交流の機会を設けている。	定期的な会議や交流を図り、児童の発達や様子を共有し職員のスキルアップにつながる経験ができるようにしている。	児童も職員も成長の共有ができるような定期的な活動を計画的に実践していく。
2	活動のスペースが十分に確保されており、生活空間の中で様々なプログラムに応じた活動が確保できている。また、静かに過ごすことを望まれる場合の空間も確保している。	活動を事業所内のみで固定せず、個別支援計画に基づきながら社会経験が重ねられるプログラムの工夫を行っている。	児童一人ひとりの豊かな人生を大きな目的として「やってみたい」という意欲を大切にしながら発達支援としての成長につながることを意識した楽しいプログラムを構成する。
3	保育士、理学療法士等専門職員を配置し、利用児童を多角的にみて支援方法を考えることができる。	利用児童の特性や課題を意識しながら個別支援計画に基づいた支援をスモールステップで段階に応じた支援を行えるように心がけている。	多職種間の連携を図り会議や研修を重ね専門性の質の向上に努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや家族も参加できる研修会やプログラムが行えていない。	職員の退職や異動に伴い職員の経験値に格差があることで的確で専門的なアドバイス等が提供できるまでの育成ができていない。	職員の研修を設けお家族の相談事に対応できる質の向上を目指す。また、知り得た情報の発信や書籍等の紹介を行う。
2	放課後児童クラブや地域交流の機会を作る機会が少ない。	同法人の事業所や高齢者施設での交流の機会を設けているが感染症流行等の観点から機会が少なくなってしまった。	地域のイベントや公民館の催しもの、公共施設などを利用することなどの経験を重ねていく中で社会とのつながりを深めていく。また感染症等の状況に留意しながら高齢者施設との交流も行い世代間交流の機会を設けていく。
3	安全計画や事故防止、緊急時、感染症対応等のマニュアルを作成し、研修や訓練を行っているが周知して頂いている保護者は少ない。	訓練の報告はおたよりの中の掲載しているが情報が伝わりにくい様子がみられる。	利用開始時、年度初めに年間安全計画を配布し訓練を行っていることや各種マニュアルを作成していることを周知して頂けるように努める。また、必要に応じて訓練や研修の報告や案内を配布する。